

横浜市小学校社会科研究会

5 学年部会

研修会記録

第 7 号

令和 2年 1月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新井 篤 志

同 学年部長 加藤 沙 智 子

【提案日時】

12月4日（水）

提案 小林宏幸先生（山元小）

【会 場】

横浜市立山元小学校

司会 金澤範明先生（瀬戸ヶ谷小）

記録 福田恭祐先生（永田小）

○単元名

自然災害とともに生きる～東日本大震災から考える日本の防災～

○授業者より

- ・社会科で大切にしていることは、授業の中で立ち止まっていく場面である。教師の問いかけではなく、子どもたちの問いかけが活発化し、授業が展開していくよう勧めたい。本時展開で言えば、学習問題が出されるところ。
- ・前単元から二人の児童を注目した。児童同士が足りないところを補い合っていくと予想し、注目児童とした。

○協議内容

- ・**資料**時間的に見られるもの、空間的に見られるものがあることで子どもたちの思考の手助けとなり、活発な話し合いへとつながった。
- ・**自分事**本当に自分事として考えていた。子どもたちの考えの中に「命について」があった。「費用についての考え」と「命についての考え」がぶつかり合っていたが、そうなるとある程度の答えを出さなければいけない。自分事として考えていたが、全員ではなかった。1人でも本気になっていないなら、近くの人との意見交流があってもよかったのではないか。
- ・**落としどころ**「これ！という1つ」に落ちることはないと思う。納得できない答えの先に本気の学習問題がある。答えを出すことが大切なのではなく、答えを出すために思考し、追及していく姿が大切である。

<講師の先生より>

横浜国立大学教育学部 教授 重松 克也 先生

- ・子ども達は自分の考えを臆せずに出して話し合っていた。次のステップは、資料は子ども自身が作成し提示するようになる へ。
- ・「納得しているかどうか」は先生側の評価として持っているに留める。
- ・授業目標として当事者に「共感しよう」は難しい。「人ごとにしなさい」くらいで、問題解決に向けてみんなで知恵を練り上げるので良い。

菊名小学校 校長 野間 義晴 先生

- ・**子どもと作り上げる単元づくり**問いを繋げていくような単元づくりが、活発な意見交流に繋がり、語る児童をつくっていく。
- ・**Y町の人の立場**様々な立場、職業、移住民等、なかなか難しかったが、子どもたちは自分事として考えることができていた。

文責 金澤 範明 （瀬戸ヶ谷小学校）